

コルテス伊藤の我が音楽人生

第2回 GSからROCKへ

こんにちは、コルテス伊藤です。前回に引き続き音楽人生について色々書くことを書かせていただきます。深夜放送ラジオを聴いて音楽というものに火がついてしまった少年は、当時日本で一大ブームを起こしていたGS（グループサウンズ）にのめり込んでしまったのであります。

GSには歌謡曲サイドのGSもあり、本当に本物のROCKへ行くGSもありこの辺の微妙な関係はとても面白いので少しお話させていただきます。

【歌謡曲】

ブルーコメッツ、タイガース、テンプターズ、パープルシャドウズ、ワイルドワンズ、オックス、ダーツ、カーナビーツ etc

当時のテレビからも少なからずヒット曲が流れていましたね。

【ROCKへ流れていく強者バンド】

ゴールデンカップス、ダイナマイツ、モップス、ピーバーズ、491(ジョー山中) 当時の録音媒体はもっぱらシングル盤、俗に言うドーナツ盤つまり45回転のレコードでした。330円か370円。45年前のこの値段は非常に高額でお年玉や親戚周りで集めた小遣いがなければ相当無理でして、ましてや2,000円前後の値段の30cmLPレコードは、眺めるだけの高嶺の花でした。私はタイガースという大阪出身のバンドが大好きで、今でもシングル盤はコンプリートで所持いたしております(ご存じの沢田研二さんのいたバンド)。



歌謡曲よりのGSは皆さんよくご存じだと思いますので、この辺でROCKに近づいていくバンドの話させていただきます。その後の日本のROCK界に重要な位置を占めていく、そんな人達の話ですが。ゴールデンカップスからはルイズルイス加部、ピーバーズから石間秀樹、この二人はその後の日本ROCKに重要なポジションを占めます。そういえば、モップスの星勝さんは素晴らしいproducerでもあります。

GSが下火になるのが中学生の時点で、その頃は遂にニューロックなるものに次第に身を沈めていきましたね。友達も結構好きな連中がいて、そんな輩との関係ができてきて、千葉市内にある日本楽器(YAMAHA)にお正月と夏休みにLPレコードを買いに行くのが楽しみで、せっせとお小遣いをためました。地元にもレコード店はありましたが輸入盤は置いて

なかったもので、日本楽器で輸入盤を見たり、触ったりは至福のひと時でした。なんせインターネットとかない時代ですからね、新鮮でした。音楽雑誌にも輸入盤店の広告が多数載っていましたが、これも心ときめきましたね。MUSICLIFE、ヤングミュージック、NMM等最高に面白い音楽が新鮮な時代の本。その時に購入したのはJIMI HENDRIXのSMASH HITS(日本グラモフォン1,750円)、GREATFULDEADのANTHEM OF THE SUN(東芝音工2,000円赤盤)。中学生だと思ふものすごいレコードを買っていましたね。

輸入盤にはまって行くのは高校生

からでしたが、値段的にはだいぶ安くまりました。

それから、またまた私にとってこの音楽人生に拍車をかけていく出来事があるのですが、その話は次回にということ。

最近、またレコードが売れてきたようです。カセットテープまでブームに。本当に時代が逆行していくのかも、それはそれで楽しみですね。デジタルでは表現できないものがアナログにはあり、何となくそれが暖かさや気が付くころには走馬灯のように自分の人生も思い出してはおりますが(笑)。

(ひたちなか市・伊藤歯科医院

伊藤 輝彦)